

【タカラバイオ SARS-CoV-2 Direct RT-qPCR法を用いた検体解析手法】

*本手法はあくまでモデル試験の一例です。また、リアルタイムPCR装置と試薬が異なる場合は別途手法の調整が必要です。

【唾液検体回収方法】

- ・唾液検体 2mlに対して本品不活化液 (VisInact) 2mlを加えて混合ください
- ・唾液不活化検体の保管・輸送は高温 (25°C以上) を避けるようにしてください

【検体受け入れ後の保管】

- ・RT-qPCRでの解析精度を高める為、唾液検体は採取後、速やかに解析するようにしてください
- ・唾液検体をすぐに解析できない場合は冷蔵で保存してください

【唾液試料調整】

- ・VisInactを含む唾液検体を1.5mlチューブに移してください
- ・卓上遠心装置等を用いて遠心操作を行ってください (10,000rpm以上、3分以上)
- ・検体上清 8 µlを採取してください (沈殿物、浮遊物、口腔粘膜に由来する粘性物質を含まないように注意ください)
- ・タカラバイオ社製のキットに含まれるSolution Aを2µl加えてください (検体上清 8µlとSolution A 2µlで合計10µlとなります)
- ・PCR装置等を利用して95°Cで5分間加温処理ください

【以上はタカラバイオキットを用いたプロトコールになります。遠心以降の手順につきましてはご使用の各キット手順書に沿って行ってください】

RT-qPCRでのSARS-CoV-2遺伝子増幅準備

- ・タカラバイオ社製RT-qPCR試薬の手順書に従って、反応液を作成してください

参照：https://catalog.takara-bio.co.jp/product/basic_info.php?unitid=U100009449

RT-qPCR操作

- ・各社のPCR装置の条件設定は、タカラバイオ社のHPに推奨されている手順書を参考に設定ください

参照：https://catalog.takara-bio.co.jp/PDFS/rc300a_cs96_manual.pdf